

## 植物園の図書と「原文庫」

岩 槻 邦 男 (植物園)

1978年4月にまとめられた「東京大学理学部附属植物園調査報告」に、“植物科学の原点となる自然史の研究が真に発展するためには、「生きた植物」、「標本」および「図書」が完備した研究、実験施設と、これを有効に利用するための人員の確保が必要である。”とあり、資料7に図書の概略が紹介されている。さらに、これに基き、1980年4月にまとめられた「東京大学理学部附属植物園における図書の現状と将来計画に関する報告」では、“日本において自然誌を中心とした基礎植物学の研究・教育に必要な図書をこれだけ一ヶ所にまとめて保管している所は他になく、今後基礎植物学の研究・教育を発展させてゆくためには、これらの図書の価値は計り知れないものがある。”と評価されている。

生物の多様性を扱う研究分野では、標本や図書から得られる情報は必要不可欠のものであり、命名に関する国際的な規約との関連もあって、最新の文献と同時に、種の記載などを含む古い文献も研究を進める上で欠かせないものである。古い文献を研究上有効に活用するという点では、理学部のうちでは多少特異な性格ももっている。植物園を研究・教育のための施設として充実させるためには、すでに収集されている2万冊に余る図書を活用すると同時に、さらに蔵書を加え、充実をはかることが肝要であるという理由はここにある。

1986~87年度に、植物園の図書の充実についてみるべきものがあった。1つは、まとまった植物学図書が購入されたことであり、もう1つは、故原寛教授が所蔵されていた図書の御寄贈を受けたことである。同時に、未製本のままだった1000冊以上の雑誌類の製本を行い、収納スペースの不足を来していた定期刊行物収蔵庫に、教育研究特別経費の配当を受けて、手動式移動棚を設置し、収

蔵量を倍増させることもできた。去る5月6日には、充実された図書の現状を御披露する会を催し、新らしく収蔵されることになった図書を実際に見ていただくこともできた。そこで、購入された図書の紹介と、御寄贈いただき「原文庫」として御利用をいただくことになった図書について、簡単に紹介させていただきたい。

1987年度の補正予算で外国図書が相当量購入されたことは、マスコミでも報道されたことである。植物学関連の図書としては、ベルダー・コレクションのようなまとまった蔵書が、先年、競売に附されたことが話題を呼んだことから、多少人々の注目を浴びることになっていた。特に、競売に附されなかったベルダー・コレクションの約半分

(図版の多いものを中心にサザビーの競売にかけられたことから、残りは文字による情報が多く、植物学上の記載の多いものだった)を日本へ導入したいという努力をしていたこともあって、(結果としては、このコレクションはアメリカへ引き取られることになってしまった。)補正予算が検討されている間に、まとまった植物学関連図書の手当てができたので、それを購入のリストに加えていただくことができた。購入に当っては、図書館の方々にも大変お世話になったことを附記し、感謝したい。

購入された植物学図書は36点94冊で、価格は3100万円であった。18世紀から19世紀に出版されたものが中心で、日本の植物の原記載をはじめ、植物の特性を記載した貴重なものばかりである。そのうちで、話題性のあるものを拾ってみると、

Mendel, G. (1866) Versuche über Pflanzen-Hybriden は、エンドウを用いた実験によって、メンデルの法則を発見し、近代遺伝学の基礎となったものであるが、1900年の再発見まで学界に評価

されなかったという伝説でも有名な論文である。この論文の掲載された *Verhandlungen des Naturforschenden Vereines in Brünn*, Band 5 (1865年版, 実際には66年刊行) も含まれている。植物園には、メンデルが植物学の研究材料として用いたブドウが植栽されているが、併せて近代遺伝学の曙を偲びたい。

Darwin, C. (1862) *On the various contrivances by which British and foreign Orchids are fertilized by Insects, and on the good effects of intercrossing* は、ランの花の形態と訪花昆虫の共進化に関する書で、ダーウィンが進化を論証するためにものした書のうちの1つである。被子植物の種分化との関連で、昆虫と花の共進化は現代風に解析の対象とされる課題であるが、進化との関わりで最初に論じられたのが本書である。

Wallich, N. (1828~49) *A numerical list of dried specimens* は、カルカッタの植物園が大量に収集し、主としてヨーロッパの研究機関に送り出した資料標本のリストで、ここで新らしく名前がつけられたものが多い。日本の植物と関連の深いヒマヤラの植物の研究にとって貴重な文献である。

「原文庫」は、原寛名誉教授の旧蔵書をまとめたコーナーである。原寛先生旧蔵書については、植物園に収納して関連研究者の利用の便に供するようという御好意で御寄附いただいた。大量の図書であるので、市場価値の高い351冊については正規の寄附手続きを終えているが、他の大部分については整理に手間どっていた。一部は植物園

所蔵のものと重複しており、それらについての処置なども含めて、まだ完全に整ったという状態ではないが、できるだけ早く利用の便をはかることが御寄附いただいた趣旨に沿うものであることから、5月6日に「原文庫」を開設させていただいた次第である。

原寛先生は、東京大学の経費では購入できなかった図書のうち、入手可能となった貴重書を御自分の費用で購入されておられた。だから、植物園の図書と相補的なものも多く、このコレクションを御寄附いただくことによって、植物園の蔵書が飛躍的に充実することになる。今后この図書を活用させていただく研究者を代表して、原一二美夫人に厚くお礼を申し上げたい。

「原文庫」の図書は植物分類学関連書が中心で、一般的な話題性のあるものは含まれていないが、*Bulletin de la Société des Naturalistes des Moscow* のように、植物学の範囲にとどまらず、自然誌一般の研究者にとって、他ではなかなか見られないものもあり、Curtis, W. の *Flora Londonensis* や Hooker, J.D. の *Illustration of Himalayan Plants*, Lindley, J. のランの図譜類など、目を楽しませてくれる書も多数含まれている。

植物園には現在司書が居らず、そのため図書の利用は他の職員を通じてで、多少不便は忍んでいたただかなければならないのが現状ではあるが、貴重な図書がもっと活用され、基礎科学の発展につながることを期待したい。